

# 強者の戦略

こんにちは、日本史の岡上です。「東大日本史のみかた」の連載5年目です。よろしくお願いします。今年度も東大の最新問題の解説と、その問題の根底にある「東大が受験生に問いたい（知っておいてもらいたい）日本史」について考えていきたいと思います。

また、昨年度に引き続き、「(日本語としては)よく書けているが、(問題の解答としては)点にならない」解答にならないよう、「点に繋がる解答、合格に繋がる解答を作成するために何が大事なのか」といった観点からもお話ししていきたいと思います。

第18回となる今回は2013年の東大日本史の第1問を取り上げてお話をしていきたいと思います。さあ、1週間、しっかり問題を考えてみてください。

## 【2013年度 東京大学 文科前期 第1問】

次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

- (1) 『宋書』には、478年に倭王武が宋に遣使し、周辺の国を征服したことを述べ、「使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事安東大將軍倭王」に任じられたと記す。こののち推古朝の遣隋使まで中国への遣使は見られない。
- (2) 埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣の銘文には、オワケの臣が先祖以来大王に奉仕し、ワカタケル大王が「天下を治める」のをたすけたと記す。熊本県の江田船山古墳出土の鉄刀銘にも「治天下ワカタケル大王」が見える。前者の銘文は471年に記されたとする説が有力である。
- (3) 『日本書紀』には、雄略天皇を「大泊瀬幼武天皇」と記している。「記紀」は、雄略天皇をきわめて残忍な人物として描き、中央の葛城氏や地方の吉備氏を攻略した伝承を記している。
- (4) 475年に百済は高句麗に攻められ、王が戦死していったん滅び、そののち都を南に移した。この戦乱で多くの王族とともに百済の人々が倭に渡来した。さまざまな技術が渡来人によって伝えられ、ヤマト政権は彼らを部に組織した。

## 設 問

5世紀後半のワカタケル大王の時代は、古代国家成立の過程でどのような意味を持っていたか。宋の皇帝に官職を求める国際的な立場と「治天下大王」という国内での称号の相違に留意しながら、6行以内で説明しなさい。